

# 徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 夏の季語 中巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ2014 ～俳句へのいざない～』は2014年（平成26年）FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節（春・夏・秋・冬）ごとに、それぞれ3巻（上巻・中巻・下巻）にわけて刊行しております。

六月五日

今日の季語のご紹介は“梅雨（つゆ）”です。

梅雨とは梅の実の黄熟するころの長雨の時期の事です。

ちなみに空梅雨は梅雨時期に雨が降らない事、梅雨冷はそのころの冷え込みの事です。

六月八日

今日の季語のご紹介は“清水（しみず）”です。

泉と同じく湧き出るきれいな地下水の事です。

六月九日

今日の季語のご紹介は“葛饅頭（くずまんじゅう）”です。

葛粉で皮を作って餡（あん）を入れて蒸した菓子。

桜の葉で包むので葛桜ともいいます。

六月十日

今日の季語のご紹介は“時の記念日（ときのきねんび）”です。

今日は時の記念日です。

時を大切にすする心持を養うために種々の行事が行われます。

六月十一日

今日の季語のご紹介は“心天（ところてん）”です。

テングサから作った寒天に似た食品です。

酢醤油、糖蜜をかけて食べます。

六月十五日

今日の季語のご紹介は“翡翠（かわせみ）”です。

川や池などの水辺に住み、体のわりに大きなクチバシで水面に浮かんでくる小魚を捕えます。

羽の色は宝石のヒスイの色をまじえた美しい鳥です。

六月十六日

今日の季語のご紹介は“亀の子（かめのこ）”です。

カメの子供は親とそっくりな形をしています。

小さなカメの子供のチョコチョコ動き回る姿は可愛さがありますね。

六月十七日

今日の季語のご紹介は“夏の蝶（なつのちょう）”です。

チョウといえは春ですが夏にもさまざまなチョウが飛んでいます。

庭先や野山に舞う夏チョウを皆さんも見かけるのではないのでしょうか。

六月十八日

今日の季語のご紹介は“蝸牛（かたつむり）”です。

暗い物陰が好きで湿った雨後などに盛んに活動します。

半透明の殻を背負い短い角を出した格好をしております。

六月十九日

今日の季語のご紹介は“筍（たけのこ）”です。

多種ある竹のうち食用にするのはほぼ孟宗竹【（よみ；もうそうちく）意味；イネ科の竹】です。

筍を使った料理として煮物、木の芽あえ、筍飯など季節感ゆたかな風味がたくさんあります。

六月二十日

今日の季語のご紹介は“新茶（しんちゃ）”です。

その年に摘んだ新芽の茶は初夏のころ市場に出回ります。

これが新茶で走り茶ともいいます。

六月二十一日

今日の季語のご紹介は“夏至（げし）”です。

1年中で最も昼の長い日で今日（6月21日）、明日（6月22日）ごろをさします。

六月二十二日

今日の季語のご紹介は“河鹿（かじか）”です。

溪流にすみ姿は一向に見栄えのしない痩せた小さいカエルです。

秋虫のような清らかな声で鳴きます。

六月二十三日

今日の季語のご紹介は“茄子の花（なすのはな）”です。  
畑に栽培されるナスは初夏より薄紫の五裂の合弁花を葉の付け根に開きます。

六月二十四日

今日の季語のご紹介は“草刈（くさかり）”です。  
農家では夏に刈り取った雑草を家畜の飼料や肥料にします。

六月二十五日

今日の季語のご紹介は“梅雨の月”（つゆのつき）です。  
先日も綺麗な満月が見られましたが、梅雨時、雲の合間に綺麗なお月さまが顔をだす瞬間。  
目を奪われることがありますね。

六月二十六日

今日の季語のご紹介は“蜜豆”（みつまめ）です。  
寒天にフルーツや餡をのせ、黒蜜をかけていただくことです。  
甘味処に入ると、カキ氷にしようか？蜜豆にしようか？  
悩める時期が到来しましたね。

六月二十七日

今日の季語のご紹介は“梔子花（くちなしのはな）”です。  
この時期、甘い香りに誘われて、ふと目を向けると白く凜とした花が目に入ってきますね。  
花言葉は「幸福・優雅・洗練・清潔」

六月二十八日

今日の季語のご紹介は“雹”（ひょう）です。  
古くは氷雨（ひさめ）といい、豆粒ぐらいから、拳大ほどのこともあります。  
雷雨を伴うことが多く、この時期特有の現象でもあります。

六月二十九日

今日の季語のご紹介は“水羊羹”（みずようかん）です。  
餡に寒天を混ぜ、冷やしかためた夏向きのお菓子です。  
禅僧により日本に伝来。禅僧は肉食が戒律により禁じられていた為、羊肉の代わりに小豆  
を用いたのが原型とされています。

六月三十日

今日の季語のご紹介は“鱧”（はも）です。

沿岸部に多く生息し、ウナギに似た形状をしているがずっと大きいです。

関西地方では、夏の味覚の代表として珍重されています。

七月一日

今日の季語のご紹介は“梅雨明け”（つゆあけ）です。

梅雨の入り明けには、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。

梅雨が明けると、本格的な夏の到来です。

七月二日

今日の季語のご紹介は“噴水”（ふんすい）です。

公園・広場などで、水を噴き上げて涼の演出をする役目もある装置。

最近では、ライトアップされたり、音楽に合わせて水が噴出するなど、

娯楽性に富んだものが見られます。

七月三日

今日の季語のご紹介は“白鷺（しらさぎ）”です。

池や川・水田などですっきりとした白い姿を見かけることがあります。

大サギ・中サギ・小サギ等の総称で、白鷺と呼ばれており、日本画のモチーフとして多用されています。

七月四日

今日の季語のご紹介は“青蔦”（あおつた）です。

本州から九州にわたって山野に自生するが、都会の洋館や外壁などでも見られます。

青々とした蔦を見ると、夏を実感しますね。

七月五日

今日の季語のご紹介は“夜釣り”（よづり）です。

夏の時期、夕涼みもかねて遊べる夜の魚釣りです。

「ネコにも釣れる」と言われるぐらい、大物が期待できるのも夜釣りの醍醐味ですね。